

11月11日・12日のワークショップで質問された本を中心に、経済教育をすすめる上で役立つ本を、さしあたり何冊か上げておきます。参考にしてください。ただし、これらの本は経済の考え方を中心とした本で、日本経済や世界経済の動向を押さえた本ではありません。それはまた別の機会に紹介します。また、あくまでも私の観点から評価ですから、いろいろな角度から評価してゆくことが必要と思っています。

1 『レモンをお金に変える法』河出書房新社 1680円 ご存知、佐和隆光先生が翻訳をしたロングセラーの絵本です。ミクロの世界がこんなに自然に書かれている本はないと思います。

2 『レモンをお金に変える法』河出書房新社 1680円 マクロ編です。1970年代のスタグフレーションが下敷きなのでやや古いところがありますが、それでも使えます。

3 『世の中なんでも経済学』ワニブックス 1400円+税 NHK教育の番組を基にした本。ただし、きちんと考えて作られたのではないので、内容的にはちょっと不満。ビデオはNHKの学校放送局に問い合わせると、貸してもらえる可能性があります。

4 『経済学的思考のセンス』大竹文雄 中公新書 819円 「お金がない人を助けるとき、どうやって助けるのですか？」という疑問からはじまり、様々な事例を経済学的な思考で解いてゆく本です。ワークショップでの大竹先生のレクチャーを理解するにはこの本から。

5 『美しい経済学』小樽商大高大連携チーム編 日本経済評論社 1300円+税 川瀬先生の札幌旭丘高校などの高校生に大学の先生方が講義した内容を整理したものです。内容はかなり本格的な経済学入門となっています。ほかに、経営学、経営法学もあります。

6 『調べてみようお金の動き』泉美智子 岩波ジュニア新書 780円 小遣いからはじまり、国の財政までお金を切り口にして経済を調べます。総合学習などで参考になります。

7 『経済の考え方が分かる本』新井明他 岩波ジュニア新書 780円 子どもたちが参加したe-教室のやりとりから生まれた本です。機会費用などを噛み砕いて説明しているとともに、裁定取引や比較優位など経済を考える上で必要な概念や考え方を多くとりあげています。